

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成31年2月12日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670200544
法人名	有限会社 川内介護福祉会
事業所名	グループホーム 川内森の里
所在地	鹿児島県薩摩川内市中郷町6956番地49 (電話) 0996-27-6568
自己評価作成日	平成30年12月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成31年1月24日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・利用者様、一人一人のADLの把握に努めできる事の継続を促しながら自立支援に取り組んでいる。特に排泄ケアでは、入所時オムツ使用やリハビリパンツ使用の方も、排泄パターンの把握に努め布パンツに変更することにより、トイレでの排泄の自立支援に取り組んでいる。
- ・地域の生き生きサロンや小学校の運動会やバザーに参加したり、踊りや生け花等のボランティアを受け入れ地域との交流や社会参加に努めている。
- ・毎日の食事也希望や要望を取り入れたり、季節の献立や行事食を提供している。また、家族会では日頃食べている食事をご家族様と一緒に食べる機会を作り食事が楽しめるように工夫している。

- ・当事業所は、自治会に加入し、回覧板等で地域と情報を交換している。廃品回収や運動会などの地域行事にも積極的に参加している。「生き生きサロン」に参加して、成年後見制度や認知症についての相談を受けたり、情報発信をするなど、日常的に交流している。
- ・利用者や家族の意見や要望の把握に、家族との連絡ノートを常備したりして、遠慮なく意見が言える雰囲気作りに留意している。
- ・排泄ケアを大切にして、トイレでの排泄や排泄の自立支援に取り組んでいる。改善された事例がある。
- ・管理者は職員が働きやすい環境作りに配慮し、資格取得に向けた支援や各種研修への出席を奨励している。職員間のコミュニケーションも良く、自らの資質向上に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所の理念をホールや事務所内に掲示し申し送り時や会議で理念を読み上げ意識付けができるように努めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をホールや事業所内に掲示し、パンフレットにも掲載している。申し送り時や会議等で意識づけし、会議で確認している。職員は理念を共有して実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、生き生きサロンや運動会やバザー等への地域行事の参加やボランティアの受け入れで地域との交流を図っている。	自治会に加入し、回覧板等で地域と情報を交換している。生き生きサロンや廃品回収・運動会などの地域行事に積極的に参加している。保育園との交流や実習生・ボランティアなどの受け入れも行っている。生き生きサロンで成年後見人制度や認知症についての相談を受けるなど日常的に交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	推進会議等では、施設での認知症の方へのケアの実践や関り方を報告したり、また地域の民生委員の方の在宅での介護支援の様子や難しさ等を話し合う機会となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>実地指導や外部評価など評価機関での報告や、水害対策、インフルエンザ対策、火災訓練等の実施状況を報告し、意見やアドバイスを参考にしてサービス向上に努めている。</p>	<p>事業所の状況やヒヤリハット・事故報告・外部評価結果報告などを行い、意見交換をしている。そこでの意見で避難経路を再確認し検討するなど、サービス向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>推進会議への参加依頼を行い、事業所の実情や取り組みを報告している。また、改正に伴う疑問点等は窓口や電話での相談やアドバイスを頂き協力が得られるよう努めている。</p>	<p>市の担当者とは、電話や出向き、介護保険の改正の件や事業所の現状を伝え、運営推進会議にも毎回参加があり、助言を得たり協力がある。グループホーム協議会や、市主催の研修会には積極的に参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>マニュアルを作成し、推進会議やケース会議を利用し職員や地域の方々にも事業所での取り組みを理解できるよう取り組んでいる。また、日中は施錠せず外に行かれる際は、職員が寄り添ったり、見守っている。</p>	<p>マニュアルに沿って、年4回ケース会議や推進会議を利用して研修会を実施している。対象となる事例検討などで職員の共通認識を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉による拘束や声かけなどに日々配慮している。日中の玄関の施錠はせず、職員間の連携で安全な暮らしを支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束や虐待についての研修を行い、ケアを振り返り話し合いを行っている。皮下出血等の発見もヒヤリハット報告を行い、原因について話し合い再発防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護の研修に積極的に参加したり、事例検討の事例発表を行い話し合い活用できるよう支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時の契約の際に利用者様のご家族に十分な説明を行い理解・納得され契約や解約を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日頃の会話や面会時、家族会や運営推進会議等にて利用者様やご家族の意見や要望を伺い申し送りやケース会議で対応等を全職員が把握できるよう取り組んでいる。	利用者からは、日々の関わりの中で意見や要望を聞いて対応している。家族からは面会や家族会・電話・運営推進会議が意見を聞く良い機会となっている。居室にノートを置き要望等をメモに書いてもらっている。家族が週刊誌を届ける等、思いを反映させた例もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎日の申し送りや月1回のケース会議で職員の意見や提案を自由に発言できる場を設け、全職員で検討し運営に反映している。また、個別相談は内容によって代表者や管理者が行っている。</p>	<p>職員の意見や提案を聞く機会を設け、全職員で検討し反映を図っている。相談事は個別に対応している。出された提案で入浴介助を同性介助で行う等、サービス向上に反映させている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>代表者は職員の努力や実態勤務状況把握に努め、職場の環境整備を行っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員一人ひとりの能力や力量を把握し、研修内容により参加を促したり確保しスキルアップに努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>北薩地区のグループホーム協議会へ入会し、研修や協議会の役員を務めたり同業者との交流や意見交換の向上にも努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、本人様と面談を行い介護以外での趣味の話やこれまでの生活歴の話をする中で本心を伺い本人の思いやご家族の思いをすり合わせて関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に、できるだけ見学を進めて直接困りごとや不安を聞き対応の仕方等説明行い納得した上で入所して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何に困っているか、何が必要かアセスメント行い課題を表出している。また、環境の変化による弊害も考慮しながら対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることを継続できる環境作りに努め、洗濯物や家事への協力時には、感謝の意を職員が伝えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所時に、家族との関りや家族しかできない支援があることを伝え職員とご家族が共に協力しながら支援していく関係づくりを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人やご家族の面会がし易い環境作りを行っている。また、個別遠足やドライブでは自宅へ出かけたり、ご家族との墓参りや法事等変わらず継続できるようにご家族様にも協力を得ながら支援している。	家族や友人・知人の面会が多く、一緒にお茶を飲んだりしている。行きつけの理美容院への支援や手紙や電話の取次ぎ、馴染みの店での買い物、自宅に出かけたり、個別の外出など、継続的關係が途切れないよう支援している。家族の協力で外出や外食・法事・墓参などの際にも支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの性格や他利用者様の関係を把握し、臥床傾向の利用者さまへの関りやこえ掛けの協力を依頼し支えあえる支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、面会に行ったり相談員への情報提供やご家族様との連絡を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常的な会話や1対1の支援時に意向の把握に努め、できる限り思いを実現できるように努めている。	入浴介助や夜勤時など、日々の関わりの中で個々人とのコミュニケーションを図り、言葉や表情などから思いや意向の把握に努めている。場合によっては家族や関係者からも情報を得、本人中心に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や性格を考慮しながら、一人ひとりに合わせたサービスや対応に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの暮らし方や身体能力を把握しながら、自主的に行えるように声かけや感謝の意を伝え意欲的に発揮できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議には本人や家族・職員が参加し話し合っている。また、月に1回のケース会議では一人ひとりの一ヶ月毎の状況の変化や職員からの意見等話し合い課題にすぐに対応できるような体制を整えている。	本人・家族が参加しての担当者会議で個々に応じた介護計画を作成している。入所時は3ヶ月毎に、その後は6ヶ月毎にモニタリングを実施し、必要時に見直している。状況が変化した時は現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、ケアの実践を記録している。また、医療と介護に分けてわかりやすく職員が対応できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	課題がでた時には、改善策や対応がすぐに行えるよう職員間で話し合い申し送りに変更点は記入し実践できるよう対応している。また、LINEにて出勤していない職員も把握できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生き生きサロンの参加や、ボランティア依頼を行い生け花やお茶等楽しめるよう工夫している。また、地域の運動会やバザーなどに参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所しても、主治医を変更することなくかかりつけ医を優先している。家族の協力を得ながら適切な医療を継続して受けられるよう支援している。	本人及び家族等の希望を大切に、家族同行のかかりつけ医受診を支援している。歯科は往診で対応している。緊急時の対応などにかかりつけ医と協力医療機関と連携を取りながら適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師不在のため、介護職員が日々のかかわりの中で健康状態の変化や気づいたことは記録に残し病院受診や往診時に主治医や看護師に相談や助言をもらえるよう努めている。緊急時は、すぐに連絡行い対応を相談している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した場合、管理者と介護支援専門員が病院関係者と話し合いの場を設けている。入院により環境の変化による不穏が強ければ医療関係者と話し合い対応している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に「重度化した場合や終末期についての指針」を説明し同意書を得ている。また、重度化した場合は、主治医と家族と話し合い今後について話し合う場を設けている。</p>	<p>契約時に重度化や終末期に伴う対応の指針を説明し、同意書を得ている。重度化した場合は、状況変化に伴い主治医と家族と話し合い、方向性を共有できるように取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時の対応等、研修や市で開催される訓練に参加し対応できる努力を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の消防訓練を昼夜に分けての想定で実施している。また、運営推進会議では実際に水害避難訓練を行い地域の民生委員や自治会長や市の職員の意見や感想を話し合い体制づくりに努めている。</p>	<p>消防署立会いのもと年1回と自主訓練で年1回、昼夜想定消防訓練を実施している。スプリンクラーや緊急通報装置を設置し、運営推進会議参加者も一緒に行い、地域との協力関係も築いている。災害時の水や米・ラーメン・味噌汁・ごはん・缶詰などの備蓄もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴時の言葉かけの工夫を行い、まず心が動くよう務めている。トイレの扉は、さりげなく閉めて等の配慮を行っている。	外部研修に参加した職員が復命研修で報告し、職員の資質向上に取り組んでいる。入浴やトイレドアの開閉などでも、プライバシーを損ねない言葉かけやケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話や生活歴の中でよく出てくるキーワードを素に、自己決定を実現できるよう家族や職員と話し合い働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で過ごしたい方は自由に過ごせるよう対応している。レクリエーションも無理強いせず好きなように過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	定期的にビューティヘルパーを依頼したり、行きつけの美容院に行けるよう家族と協力したりしている。また、化粧品の購入や家族からの協力を得ながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の嗜好を聞き、行事食や季節の食材を取り入れたり、畑で取れた野菜を使用している。食事の準備や後片付けは利用者様が自主的にしている。	利用者の嗜好に配慮し、旬の食材で、専任の調理担当者が個々に応じた食事形態を工夫し提供している。下ごしらえや片付けなど職員と一緒にしている。誕生日の希望の献立や季節の行事食・庭でのお茶会・外食など、食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態の工夫や、偏食への対応を行っている。また、水分摂取が少ない方には嗜好に合わせた飲料の提供やゼリーでの摂取の確保など工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔内の状態を把握しながら口腔ケアを行っている。また、歯科往診時は相談やアドバイスを頂き対応している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入所前はオムツやリハビリパンツを使用していた方も、排泄パターンを把握し布パンツ+パット使用しトイレ誘導を行い自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握し必要に応じての声かけを行い、トイレでの排泄や排泄の自立を支援している。トイレでの排泄が可能になるなど、改善がみられた事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行い、水分の促しや運動、定期的なトイレ誘導を行い便秘を改善できるよう努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴拒否時は、延期したり清拭に変更して無理強いせずに対応している。個々の希望に合わせて同性介助に変更したり工夫している。	基本的には週3回、午前中であるが、個々人の体調や希望にそって柔軟に対応している。脱衣所の温度管理に配慮し、ゆず湯などで入浴を楽しめるよう支援している。個々の希望で同性介助に対応している。入浴を拒む利用者には声かけや時間調整など職員間で連携して、状況改善に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活歴や習慣を考慮し、居室で休息したり体を休める時間を個々の自己決定を尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更時は、必ず医療申し送りに記録している。また、服薬しにくい場合は、薬の形態の変更や主治医へ相談行い対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑での野菜づくりや、個別遠足では個々の希望を取り入れて少人数で個別に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	生き生きサロンや地域の行事、天気の良い時は外気浴、初詣、梅の見学、花見等行っている。また、家族の協力を得ながら法事や正月の外出等の支援を行っている。	日常的には体調などを考慮して、外気浴やドライブに出かけたり、個別外出の支援もしている。計画を立て、初詣や花見、生き生きサロンなどの地域行事に参加している。家族の協力で外出や外食・墓参・法事などの際にも支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常の金銭所持は紛失やトラブル防止の為、本人了承のもと施設で管理しているが遠足時や本人の希望があれば家族に相談し可能な限り対応できるよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族からの電話時など本人と代わり安心してもらえるよう支援している。年賀状の作成も職員と取り組み家族に送っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは明るく、窓際にソファを配置し外の景色が眺められるようになっている。季節の作品や利用者の作品を飾り季節を感じられるよう工夫している。	玄関入り口には季節の花が飾ってある。窓際にソファが多く配置している。共用の空間は開放的で採光や換気・温度・湿度に配慮し清潔である。壁には利用者と職員で作った作品や写真を飾り季節感を大事にした花もあり、居心地よく過ごせるような工夫がされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食事以外は、好きな空間で過ごせるようにしている。冬季は日向ぼっこをしながら利用者同士がくつろいだり話をされている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入所時に、家族に使い慣れた安心するものを依頼する。また、居室はADLに応じて変更できるように支援している。</p>	<p>居室はベッドとエアコン・テーブル・タンス・椅子が備え付けである。寝具はリースである。毛布や洋服かけ・テレビ・カレンダー・時計・家族の写真・人形などの使い慣れた物や馴染みの物を持ち込み、安心して過ごせるよう配慮してある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>入所時は、特に居室に目印をつけたりトイレへの誘導や動線の確認を行っている。居室の変更も可能。</p>		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない